

作成日：2018年11月14日

安全データシート

1. 製品名及び会社情報

会社名： 新田ゼラチン株式会社
住所： 〒581-0024 大阪府八尾市二俣2丁目2-2
担当部門： 品質保証部
製品名： コラーゲン BM
連絡先： 072-949-5381
メールアドレス： info-qa@nitta-gelatin.co.jp
緊急連絡先： 072-949-5381

2. 危険有害性の要約

GHS分類及び(EC)No 1272/2008 指針による分類：

本製品は、GHS及びCLP指針に則った健康及び環境に関する危険有害性物質には分類されない。

指針 67/548 (危険物質の分類、包装、表示に関するEU指針) または 指針 1999/45/EC (EU危険混合物の分類、包装、表示に関する指針) による分類：適用されない

【GHSラベル要素】EUガイドライン (EC) No1272/2008による目印ラベル

本製品は、EUガイドライン/危険成分規定に基づく表示義務はない。

絵表示またはシンボル： なし

注意喚起語： なし

危険有害性情報：

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

吸入するとアレルギー、喘息、呼吸困難を起こすおそれ。

その他の危険性

PBT(残留性、生物濃縮性、毒性物質)及びvPvB(高残留性、高生物濃縮性物質)アセスメント

PBT：適用されない

vPvB：適用されない

3. 組成成分情報

単一成分・混合品の区別： 混合物(コラーゲンの水溶液)

化学名(一般名)： コラーゲン

成分及び含有量： 0.5%コラーゲン

官報公示整理番号： ……

CAS No.： なし

EC Number： なし

危険有害成分： なし

危険有害不純物： なし

4. 応急処置

吸入した場合： 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 水又はぬるま湯で流しながら洗浄する。

目に入った場合： 清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球のすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は固着していない限り、取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合： 水で口の中をよく洗浄する。コップ1～2杯の水を与え、胃内で薄めてもよい。

必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横に向ける。意識がない場合は、口から何も与えてはならず、吐かせようとしてはならない。

応急措置をする者の保護：特になし。

医師に対する特別な注意事項：特になし。

5. 火災時の処置

消火剤：水（初期消火）、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂。

使ってはならない消火剤：大規模火災の場合、水は、使用してはいけない。

火災時の特定危険有害性：燃焼または熱分解により炭素酸化物、窒素酸化物、硫黄酸化物のガスが発生することがある。

特定の消火方法：付近の着火源を断ち、保護具を着用して消火する。消火後は、製品の内部が冷却するまでロープを張り人の立ち入りを禁止する。

消火を行なう者の保護：消火作業の際には、保護眼鏡、保護衣、状況によっては有害ガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から消火活動を行う。

6. 漏洩時の処置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：作業の際には適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項：流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささない様に注意する。

除去方法：漏洩した薬品を適切な方法で回収したのち、漏洩箇所を大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。取り扱った後、手を洗うこと。

局所排気・全体換気：大量に取り扱う場合は、保護マスク及びゴーグルを着用すること。十分な換気を行うこと。

取扱い注意事項：容器の破損につながる粗暴な取り扱いをしない。

容器を転倒、落下させる、引きずる又は容器に衝撃を加える等の粗暴な取り扱いをしない。

保管

適切な保管条件：密封容器に入れ冷蔵で保管すること。

安全な容器包装材料：十分な強度を有するビンまたはプラスチック容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：換気を十分に行う。近くに水道および洗眼設備を設置する。

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：設定されていない。

保護具

呼吸器用の保護具：適切な呼吸器用保護具を着用する。

手の保護具：適切な手袋を着用する。

目の保護具：眼の保護具を使用する。

皮膚及び体の保護具：適切な保護衣を着用する。

適切な衛生対策：正しい産業衛生と安全規定に従って取扱う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状：水溶液

色：無色透明からわずかに不透明

臭い：異臭なし

pH:	2.8～3.2
融点（軟化点・環球法）:	データなし
沸点、初留点と沸点範囲:	データなし、データなし
引火点:	適用外
自然発火点:	データなし
燃焼性:	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限下限:	データなし
蒸気圧:	データなし
蒸気密度:	データなし
蒸発速度:	データなし
比重:	データなし
分解温度:	データなし
溶解性:	酸性水に溶解
n-オクタノール／水分分配係数:	データなし
その他のデータ:	なし

10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の見取り条件においては安定。
危険有害反応可能性:	なし
避けらるべき条件:	凍結。高温。直射日光を避ける。
混蝕危険物質:	データなし
危険有害な分解生成物:	燃焼または熱分解により炭素酸化物、窒素酸化物、硫酸酸化物のガスが発生することがある。
その他:	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性:	データなし
皮膚腐食性／刺激性:	知見なし
眼にたいする重篤な損傷／刺激性:	知見なし
呼吸器感作性／皮膚感作性:	体質によってはアレルギー症状を示す場合がある。
生殖細胞変異原性:	知見なし
発がん性:	知見なし
生殖毒性:	知見なし
特定標的臓器毒性－単回暴露:	知見なし
特定標的臓器毒性－反復暴露:	知見なし
吸引性呼吸器有害性:	知見なし
その他:	知見なし

12. 環境影響情報

生態毒性:	この製品は長期に生態学上の問題を起こしていない。
魚毒性:	知見なし
その他:	知見なし
残留性/分解性:	生物学的分解が可能であるとみなされている。
生態蓄積性:	知見なし
土壌中の移動性:	知見なし
その他有害情報:	行政の許可なく大量に環境に流出させないこと。本製品のBODは、高いので水中での溶存酸素量が減少して、生態系への影響が予想される。

1 3. 廃棄上の注意

少量の場合、流出系による処理が可能であるが、大量の場合、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に内容を明確にして、処理を委託する。洗浄水等の廃液は凝集沈殿、活性汚泥などで処理することができる。その他、水質汚濁法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の定めるところに従う。包装容器を廃棄するときは、産業廃棄物として処理又は回収にまわす。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：	DOT, ADN, IMDG, IATA
国連分類：	国連の定義上危険物に該当しない。
国連番号：	該当しない
品名（国連輸送品名）：	該当しない
容器等級：	該当しない
海洋汚染物質：	該当しない
国内規制：	消防法、船舶安全法などの法令の定めるところに従う。
特別の安全対策：	特になし。
輸送の特定の安全対策及び条件：	容器の破損、漏れがないことを確認し、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み下ろしを行い、荷崩れの防止を行う。また、直射日光を避けて輸送する。
応急措置指針番号：	該当なし
その他：	なし

1 5. 適用法令

・なし

1 6. その他の情報

・なし。

その他：

略語

GHS:	Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals
HMIS:	Hazardous Materials Identification System(USA)：米国危険物質情報システム
PBT:	Persistence Bioaccumulation Toxicity: 残留性、生物残留性、毒性
vPvB:	very Persistent and very Bioaccumulative
CAS:	Chemical Abstracts Service (division of the American Chemical Society)
EINECS:	European Inventory of Existing Commercial Chemical Society
ACGIH:	American Conference of Governmental Industrial Hygienists(USA)
OSHA:	Occupational Safety and Health Administration (USA)
DOT:	US Department of Transportation
IMDG:	International Maritime Code for Dangerous Goods
IATA:	International Air Transport Association
IARC:	International Agency for Research on Cancer

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。